

2018年6月17日

(株)沖縄環境保全研究所 環境部環境調査課

渡嘉敷 真司様

お世話になっております。宮島水族館で飼育業務を務めております(株)富山学園の大西拓です。

このたびの企画展ガマコレにおきまして、オオハナサキガエルを譲渡していただき、本当にありがとうございました。おかげさまで、無事に6月16日企画展開催にこぎつけることができました。これまで日本の水族館で、オオハナサキガエルを見る機会はほとんどありません。私の同僚も全く見た人間はおらず、オオハナサキガエルを見て、大きく勇ましいカエルだと非常に興味を抱いておりました。8月16日で企画展は終わりますが、その後、常設展示にて展示できないかも模索していこうと考えております。貴社に引き続き、しっかり飼育していきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

企画展の様子を撮影しましたので、写真をお送りいたします。貴社の社長をはじめ、飼育に携われた方々、また沖縄県土木事務所さまにもお見せいただけましたら幸いです。なお企画展出口付近に、謝辞として沖縄県八重山土木事務所様、(株)沖縄環境保全研究所様のお名前を掲載させていただいております。

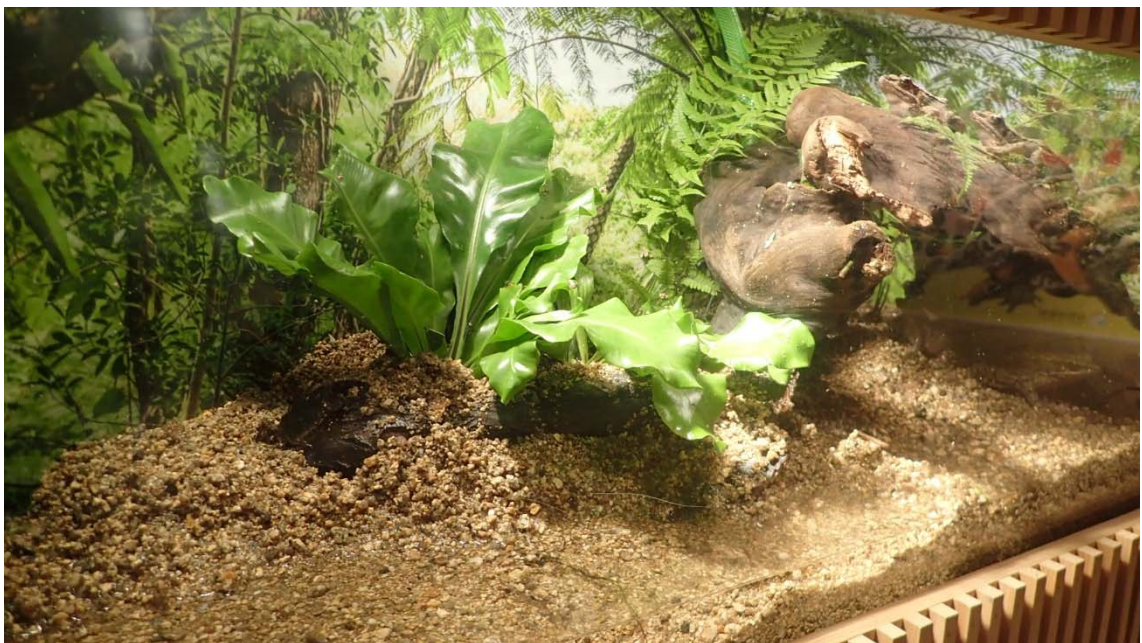
オオハナサキガエルの水槽は120cm×45cm×高さ45cmで、展示開口面は高さ30cmです。水槽内は背景に沖縄の森の写真を取り入れ、流木とオオタニワタリなどの生植物を配しました。水温20℃設定で水を循環させ、水族館で取り入れている近くの沢水も少し補水しています。カエルは若干流木の裏に隠れているものもいますが、常時半数以上の生体をお客さんにはお見せできています。写真では奥側に循環の出口である緑のホースが見えていますが、水槽の高さと開口面との差が15cmあるため、下側から覗きこまない限り前からは見えません。

謝辞は、看板と出口カエルガチャガチャとの間に設置しました。大きさは、他水槽の展示解説板と同じ30cm四方で作成し、目線より若干低めの位置に配しました。



1. オオハナサキガエル水槽

各水槽でトピック的なカエル紹介をしており、ここでは沖縄はカエルの宝庫だということを記しています。



2. オオハナサキガエル水槽内

オオハナサキガエルの水槽では、於茂登岳などで見られる花崗岩底質の沢をイメージしています。



3. オオハナサキガエル水槽内

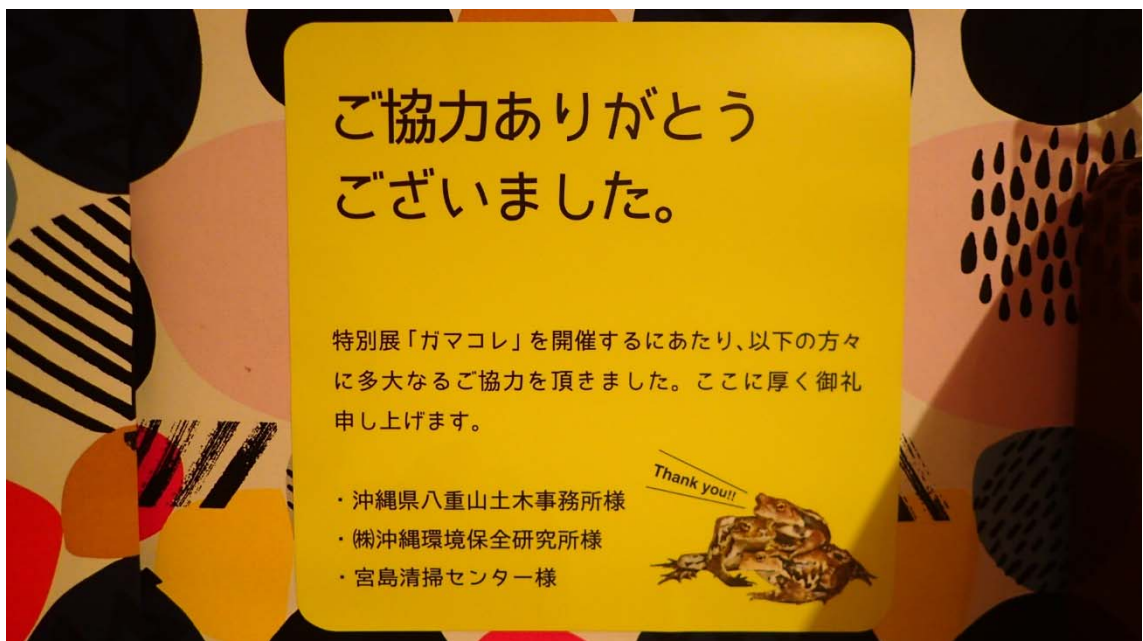


4. オオハナサキガエル水槽内

左手カエルの奥に、循環戻りのホースが見えていますが、水槽開口面からは見えにくくなっています。



5. オオハナサキガエル水槽内



6. 謝辞写真

会社、機関は、あいうえお順に記載させていただきました。